



NO. 175

響音

(ひびき)

発行 チャイルドライン ハートコール・えひめ
〒790-0808 松山市若草町8-3
松山市ボランティアセンター気付
Tel 089-923-9558 Fax 089-916-9710
E-mail heart-call@kke.biglobe.ne.jp
http://www7b.biglobe.ne.jp/~heart-call/
発行責任者 染川まどか
発行者 染川まどか
編集者 三好久恵

第22期受け手養成講座が始まります

10月16日(日)より第22期受け手ボランティア養成講座が始まります。

第1回(公開講座)は不登校新聞編集長 石井志昂氏です。

回	日時	テーマ	講師
1	10月16日(日) 10:00~12:00	公開講座 リアル&ZOOM「学校に行きたくない子どもとの付き合い方」	不登校新聞編集長 石井志昂氏
2	10月23日(日) 10:00~12:30	子どもをどうとらえるか ①子どもの権利	愛媛CAP 川口梅子氏
3	10月23日(日) 13:30~16:00	子どもをどうとらえるか ②子どもの貧困	まつやま子ども食堂代表 シングルマザー交流会松山 野中令子氏
4	10月30日(日) 10:00~12:00	子どもをどうとらえるか ③摂食障害	一般社団法人 愛媛県摂食障害支援機構代表 鈴木こころ氏
5	11月6日(日) 10:00~12:30	子どもをどうとらえるか ④子どもの発達障害	ダンボクラブ 田中輝和氏
6	11月6日(日) 13:30~16:00	傾聴と技法	精神保健福祉士・社会福祉士 越智清子氏
7	11月13日(日) 10:00~12:30	子ども時代に立ち返る	キャリアコンサルタント 重松章子氏
8	11月13日(日) 13:30~16:00	体験「聴くことってどんなこと？」	カウンセリングスペース「麦の家」 カウンセラー 村上由美子氏
9	11月20日(日) 10:00~12:00	体験「聴いてもらえる喜びを体験」	カウンセリングスペース「麦の家」 カウンセラー 村上由美子氏
10	11月27日(日) 10:00~12:30	体験「子どもの気持ちを受け止める」	カウンセリングスペース「麦の家」 カウンセラー 村上由美子氏
11	11月27日(日) 13:00~16:00	チャイルドラインの聴き方	チャイルドライン ハートコール・えひめ代表 染川まどか氏

※会場は松山市総合福祉センターです。

1→4F 視聴覚室 AB 2、3、4、9、10、11→3F 会議室 2
5→会議室 5 7→4F 視聴覚室 B



2022 年度チャイルドライン全国キャンペーン

8月22日～9月4日 16:00～21:00 チャイルドライン全国キャンペーンが始まります。
中四国エリアは8月29日～9月4日 1週間 24時間キャンペーンをします。
夏休みが終わり、子どもたちは様々な思いを抱えているのではないのでしょうか。
子どもたちの声を、話を聞かせてほしい、一緒に考えさせてほしいと願っています。



ハートコール・えひめの参加日

8月30日 16:00～22:00

8月31日 16:00～22:00

9月 4日 16:00～21:00

受け手のための継続研修

6月26日（日）10:00～12:00 松山市総合福祉センター5F小会議室

司会進行：スタッフ

参加者：11名

テーマ コロナ以降、電話を受けて感じる子どもの状況と変化

「ChildLine Annual Report 2021 ダイジェスト」を参考に、コロナ以降の子どもたちの心の変化について考えてみました。コロナ禍で他者との交流が減っている子どもたち、自分自身についての電話が増加しています。発信数が少ないことについても話し合いました。

【感想】

・チャイルドラインの利用状況ですが、あれから色々と考えてみたのですが、発信数が少ない原因を突き止める事に意味があるのかな？と思いました。どちらかと言うと、子ども達にCLがどれだけ認知されているか？こちらの方が重要なのではと思います。

私たちに課せられた事は、困った時にチャイルドラインという存在があるよ！という事を子ども達に覚えてもらう事。そこまではと
思いました。

あとは、電話する、しないは子ども達の判断ですから。





8 月 21 日（日）松山市総合福祉センター 5 F 小会議室

講師：静岡県浜松市立中学校 発達支援教室支援員 鈴木晴美氏

参加者：11名

テーマ 生きづらさを抱えた子どもたちに見られる発達特性の理解

今回初めてオンラインでの継続研修でした。静岡で発達支援教室支援員をされている鈴木晴美氏のお話を聴きました。発達障害といわれているこどもたちの生きづらさの正体は何か、変えられるところは、変えられないところは何か、そして様々な二次障害についてお話しされました。発達障害とは、脳のミラーニューロン（他社の意図・感情を理解）システムが低下していること、場面が変わっても、周りが変わっても、一時的に良い傾向になっても、治るものではないと言われました。人は傷つき体験をすると、怒りの仮面や微笑みの仮面をかぶるが、裏には悲しさや寂しさや絶望があると。

私たちは、こどもたちの話を丁寧に聴かなければならないとつくづく感じました。

【感想】

- ・発達障害、グレーのひと、みんなに対して、言葉、行動の裏側を想像、理解して接することが大切だなと思いました。あらためて、電話くれたことに対してありがたい気持ちをもって接したいなと思いました。チャイルドラインが出来ること、電話で聴いてもらえる喜びと体験を感じてもらうことによって、かけてきてくれたこどもに希望、良かったと思ってもらえることが出来るのだなと思いました。



はじめてのオンライン継続研修！



今回は泣き笑いのバザーです。立ち上げたものの財政は火の車状態で、立ち上げの 5 人で考えたのはバザーです。市主催のバザーに参加（場所代有料）、知り合いになった子どもの居場所のスタッフさんとのバザーに無理やり寄せてもらう（場所代無料）など。最初は余剰品（自分の家を探しまくる、友達からいただく）は結構あり、収益もある程度ありました。2 ヶ月に 1 回のペースのバザーに向けて、告知のためのチラシを近隣に配りまくりましたが、余剰品は徐々に少なくなっていき、売れ残ったものは何回出しても売れません。暑い夏、炎天下の公園では、スタッフの靴の底が溶けてしまいました（本当です）。寒い真冬、あまりの寒さに売り物の毛布を開け、膝にかけてしまいました（もう売れません）。近所の方が、あまりに気の毒と思ったのか「これ売っていいよ」と鉢のお花をくださいました。

そんな時、松山市総合福祉センター主催の福祉センターまつりでバザーがあることを知りました。何より嬉しいのは建物の中、人がたくさん集まること、気合が入ります。手作り木工品、フランクフルト、コーヒー、みかん、そして余剰品、この頃になるとスタッフも少し増え、出品物も増えていきました。朝早くから軽トラックにいっぱい詰め込み、荷下ろしし、並べて、夕方まで売りまくる。2 日間で売れ残ったものは、古本屋古着屋さんに持っていきました。回数を重ねていくと、バザーの時お手伝いに来てくださる方（大家さんの弟さん）や、以前のスタッフが買いに来てくれたり、お客さんとやり取りしたり、楽しいバザーとなりました。が、準備から後片づけはやはり大変なものでした。（へトヘトで帰り着き、収益金を数えるときは守銭奴の顔つきです）

今は社会がこのような状況で残念ながらバザーは出来ていませんが、あんなに疲れたのにまたやりたいなあと思ってしまいます。

20 年、いろんなことがありました。今回はスーパーフジグラン松山 1 F グランドーム特設会場で開催した大汗ものの大イベントです。これ本当に大汗ものでした、また読んでやってください。

編 集 後 記

今年度継続研修を担当するスタッフさんから

「今まで参加するだけの受け身の立場から、少しでもお手伝いできればと思っています。やってみると今までの皆さんのご苦勞が身に染みてか感じられます。色々な事にチャレンジすることは自分のためでもあると気づかせてもらいました。世の中がすごい速さで変わっていく中で、ゆっくり子どもたちの話に耳を傾け、子どもの声に学ぶことで成長できるような気がします。私たちの小さな積み重ねで、一人でも多くの子どもの笑顔が見られることを願っています。とにかく“やってみる”ことだと思いました。そうしないと何も始まりません。皆様どうぞご協力よろしくをお願いします。」

ありがとうございます。2 名の担当スタッフさん、丁寧に研修を進めてくださっています。

次回がちむどんどんします。（染）

